

バイオ・リビング・パーク



1. 課題

リニア中央新幹線名古屋駅西工区周辺の社会課題について考える。名古屋駅西口エリアには商業・業務用との建物が多いため、公園や植栽などの緑地がほとんど確保されていない。また、飲食店や老朽化した建物が多く、通りは薄暗く、治安の悪い印象を与えている。

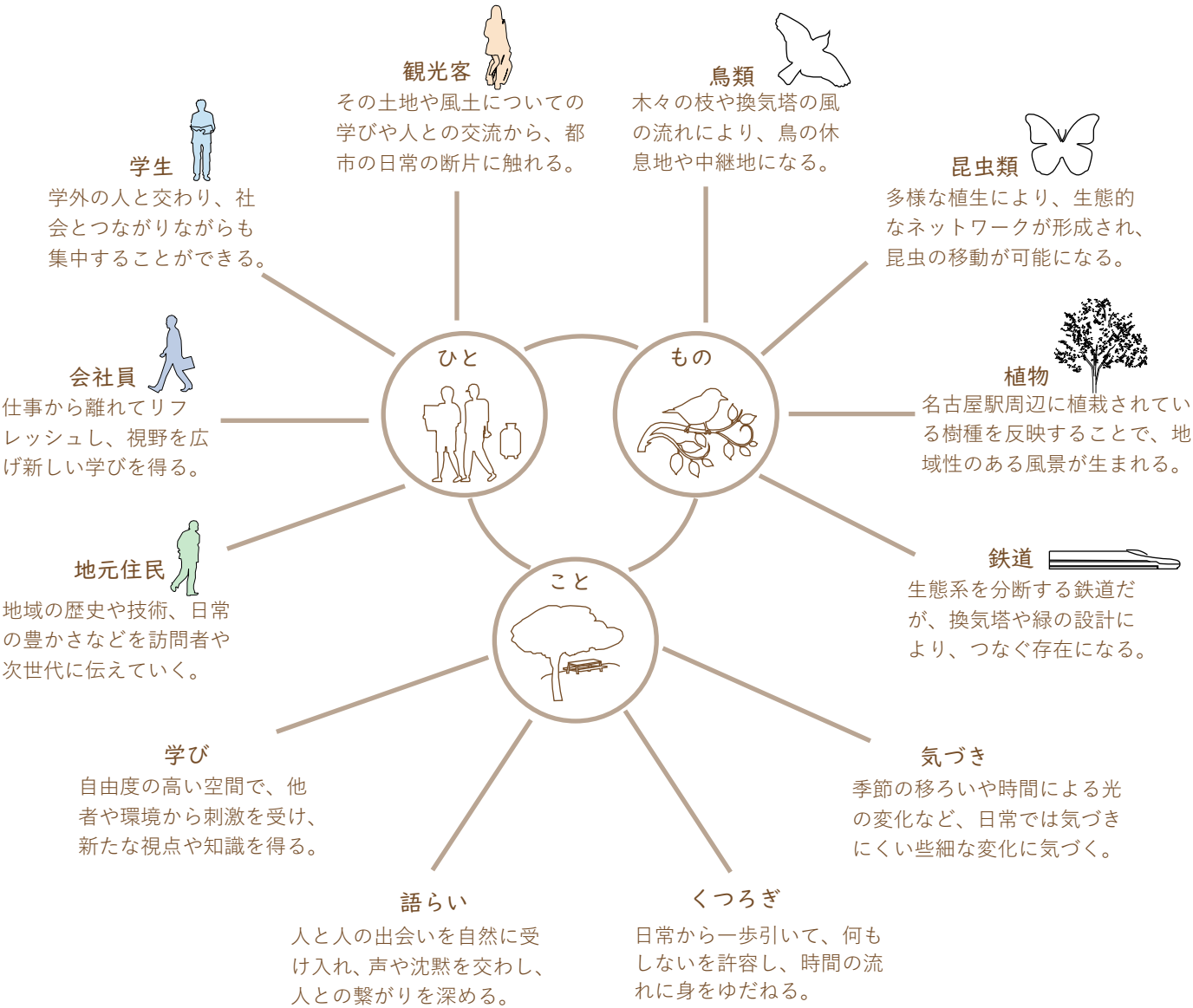
名古屋駅構内は商業施設や改札、乗換動線が交差し「ゆっくり歩く」「立ち止まる」といった余裕がなく、身体的にも精神的にも疲弊しやすい空間だと感じる。駅周辺には「座って休める」「目的なくすごせる」ような無料で長時間滞在できる開かれた空間が不足している。そこで、昼夜問わず利用できる緑地が十分にある広場のような建築を考える。計画地は、名古屋市中村区椿町2丁目辺りとした。

2. 設計主旨

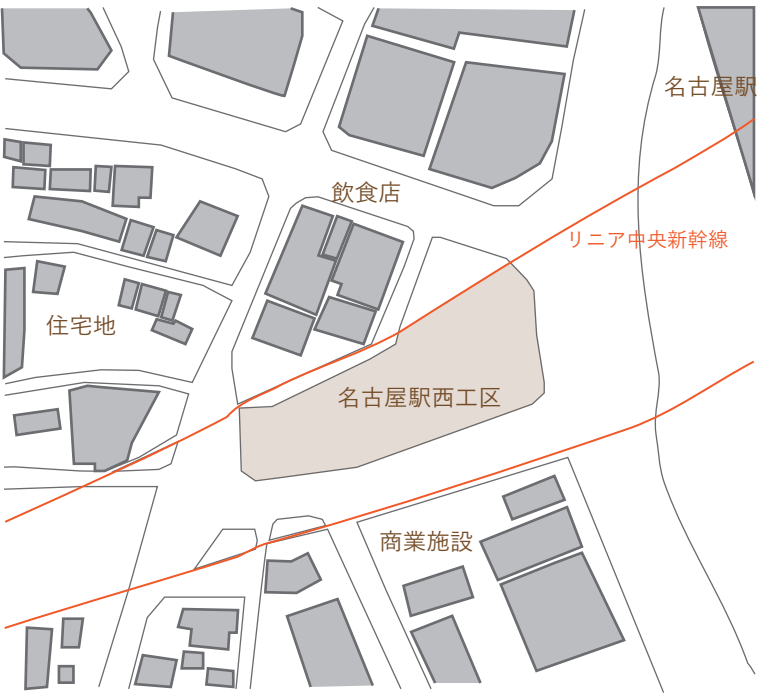
名古屋各地に緑地にある樹木を移植することで都市の緑の記憶を集めた開かれた広場と、植物や生き物の繋がりを学ぶ建築を提案する。地元住民は木々の成長を見守り、訪れる人は季節の移り変わりを楽しむことができる。緑地が生まれることで、鳥類や昆虫類の新たな生息地となり、小さな生態系の回復にも繋がる。

建物には地域住民、旅行者、学生が自由に立ち寄れる共有スペース、勉強や読書など静かに過ごせる学習スペース、飲食物を持ち込むことができる飲食スペースなどがある。薄暗く危ない雰囲気から賑わいのある空間になるように、明るく開けた空間を設けた。また、リニア中央新幹線に付随する地下換気口・設備棟を建築デザインに組み込み、機能性と都市景観の融合を目指した。換気口は無機質な施設としてではなく、広場に光や風をもたらす立体的な装置になっている。

3. ダイアグラム

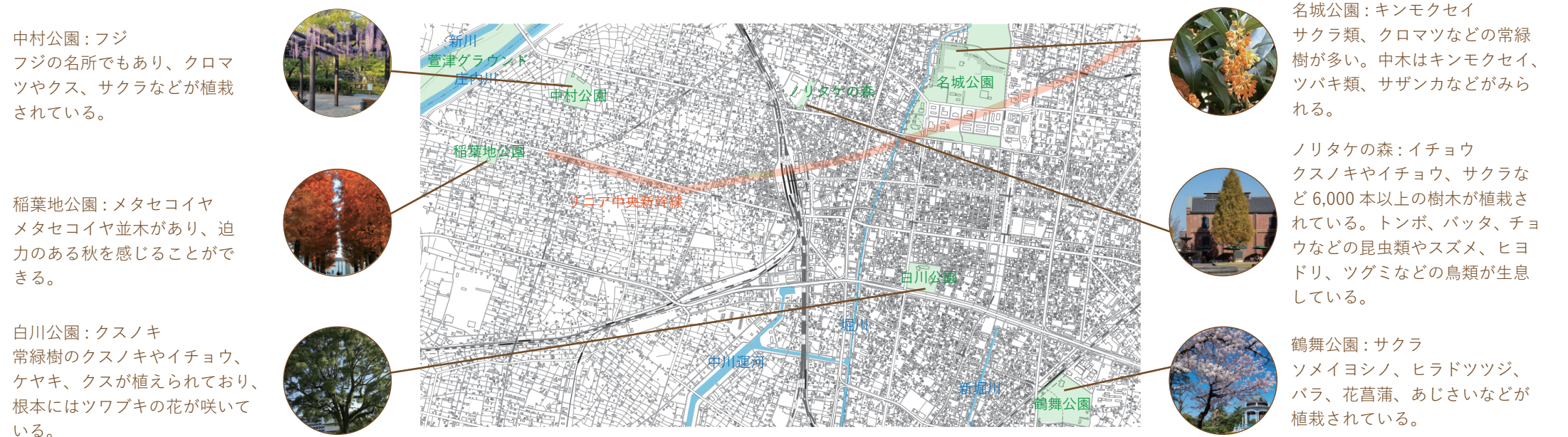


4. 計画地

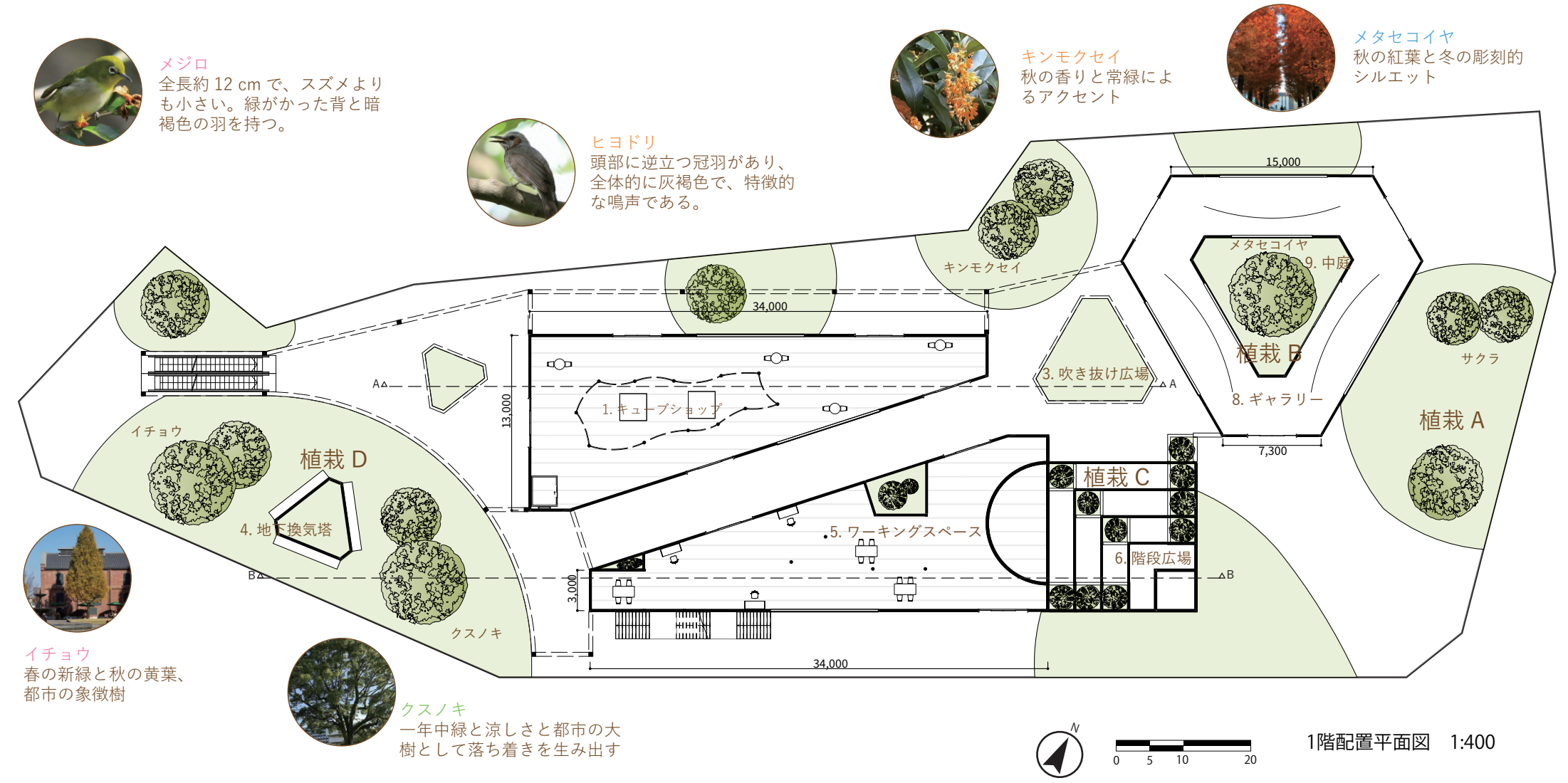


都市再生緊急整備地域に指定され、名古屋市と JR 東海による駅周辺再整備が進行している。リニア中央新幹線名古屋駅の整備に伴い、大規模な立ち退きと区画整理が行われている。地下街やペDESTリアンデッキによって東西の接続が強化され、価値が向上すると予想される。

5. 名古屋駅周辺の緑地と植栽



6. 木々、花、鳥類、昆虫類など生態系のつながり



7. 花暦

植栽 A



ヤマザクラ
3~4 月頃が催花期で、名古屋市内でも馴染み深い。
昆虫：ミツバチ類
野鳥：メジロ、スズメ



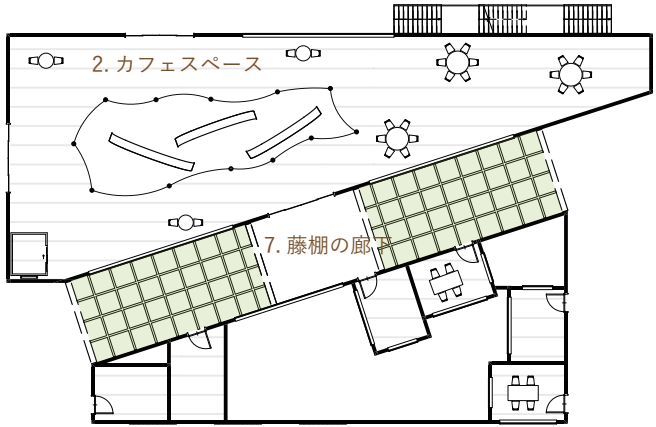
ホスタ (ギボウシ)
葉の美しさが夏に映える。
昆虫：ハナバチ、ハエ類
野鳥：ヒヨドリ



イロハモミジ
10~11 月に色づく代表種で、紅葉が鮮やか。
昆虫：アゲハ蝶幼虫
野鳥：モズ



ツバキ
12~3 月に開花し、冬に彩る常緑低木である。
昆虫：ミツバチ類
野鳥：メジロ、スズメ



植栽 C



アセビ
3~4 月に白い壺型花を房状に咲かせ、名古屋圏にも自生している。
昆虫：ハチ類、コガネムシ
野鳥：メジロ、スズメ



ハコネツツジ
花は咲き始めは白で、咲き進むにつれて赤色に変わる。
昆虫：トンボ類、小さな甲虫
野鳥：ピンズイ、ホオジロ



アジサイ
初夏に咲き、気温の変化などによって秋に独特な色合いに変化する。
昆虫：ミツバチ、カメムシ
野鳥：メジロ、ヒヨドリ



ソヨゴ
冬に実が残り、野鳥の餌場になる。
昆虫：アリや小甲虫
野鳥：ジョウビタキ、ツグミ

植栽 B



ヒアシンズ
早春に咲く球根類。
昆虫：ミツバチ、クモ類
野鳥：スズメ



リョウブ
6~8 月にかけて、甘く爽やかな香りが特徴の花を咲かせる。
昆虫：トンボ類、テントウムシ
野鳥：ホオジロ、ピンズイ

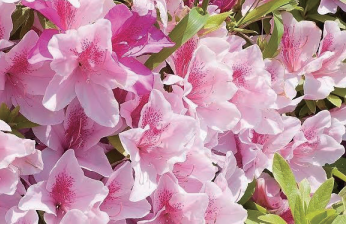


リコリス
秋のお彼岸の頃に咲き、赤い花は彼岸花としてよく知られている。
昆虫：テントウムシ、アリ
野鳥：ムクドリ



ツワブキ
冬から早春に葉と黄色い花を咲かせる。
昆虫：ハナアブ類、蝶類
野鳥：ヒヨドリ、メジロ

植栽 D



ツツジ
4~5 月に満開になり、名古屋市内でも多く植栽される。
昆虫：チョウ類、ミツバチ
野鳥：メジロ、ヒヨドリ



ススキ
暑い夏にも強く、秋の穂も楽しめる。
昆虫：セミ、トンボ
野鳥：モズ、ヒヨドリ

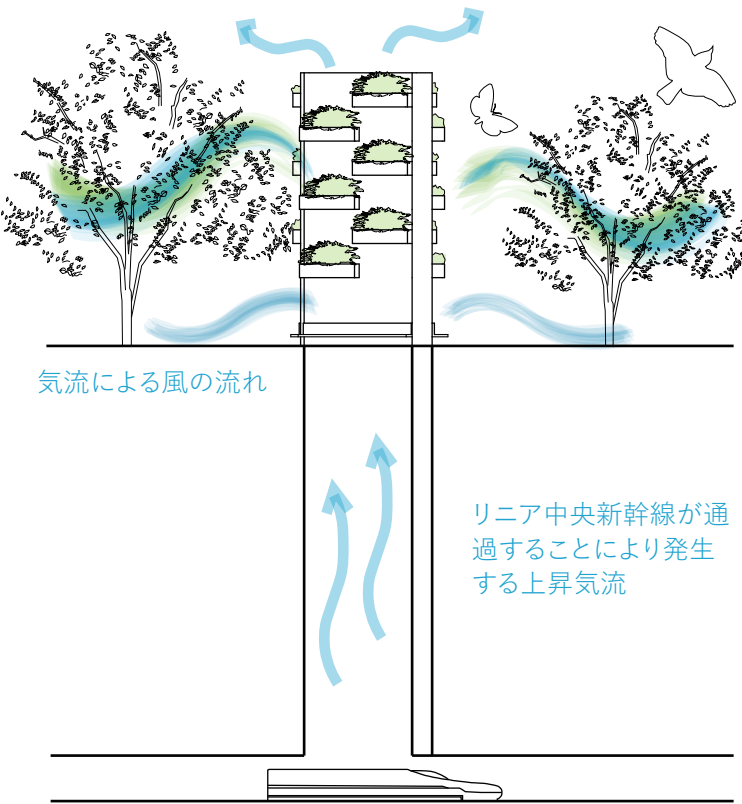


リンドウ
秋の彩りを添える草本、名古屋でも秋植えできる。
昆虫：ミツバチ、チョウ類
野鳥：モズ、ホオジロ



ナンテン
冬に紅い実をつける、メギ科の常緑低木。
昆虫：アリ、小型甲虫
野鳥：ツグミ、ヒヨドリ

8. 換気塔の役割



リニアが通過する際に発生する衝撃的な風が発生する。その風により種子が拡散されるように、換気塔側面に花暦「植栽 B」で示すような様々な植物を植える。そのことによって、バイオ・リビング・パーク内の植栽だけでなく名古屋駅周辺の植物の多様性に繋がる。野鳥や昆虫類の生息地が増えることにより、「5. 名古屋駅周辺の緑地と植栽」に示したような公園との移動が発生する。植栽・野鳥・昆虫類の変化が起きることで、地元の住人や観光客も季節の変化を感じ、様々な土地に訪れるきっかけになる。

9. 地元住民、会社員、学生、観光客など多様な人々とのゆるやかなつながり



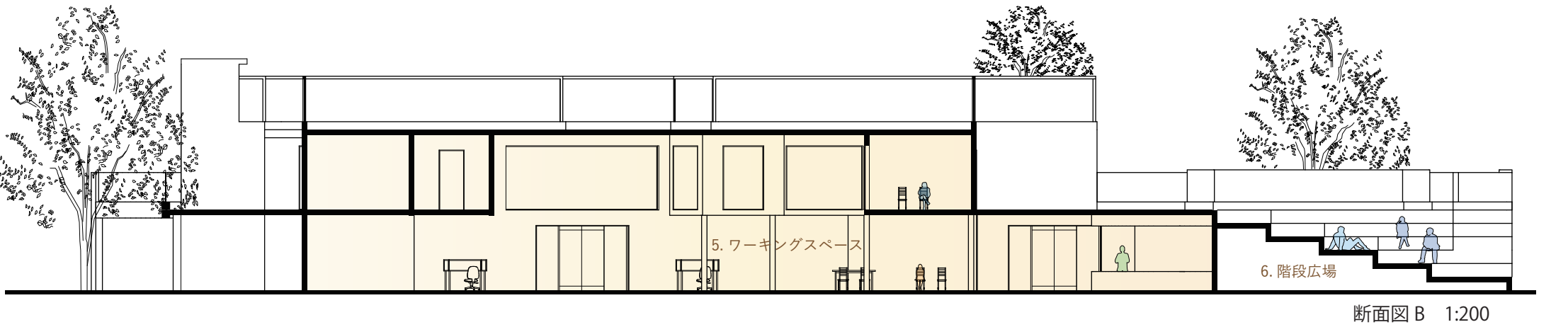
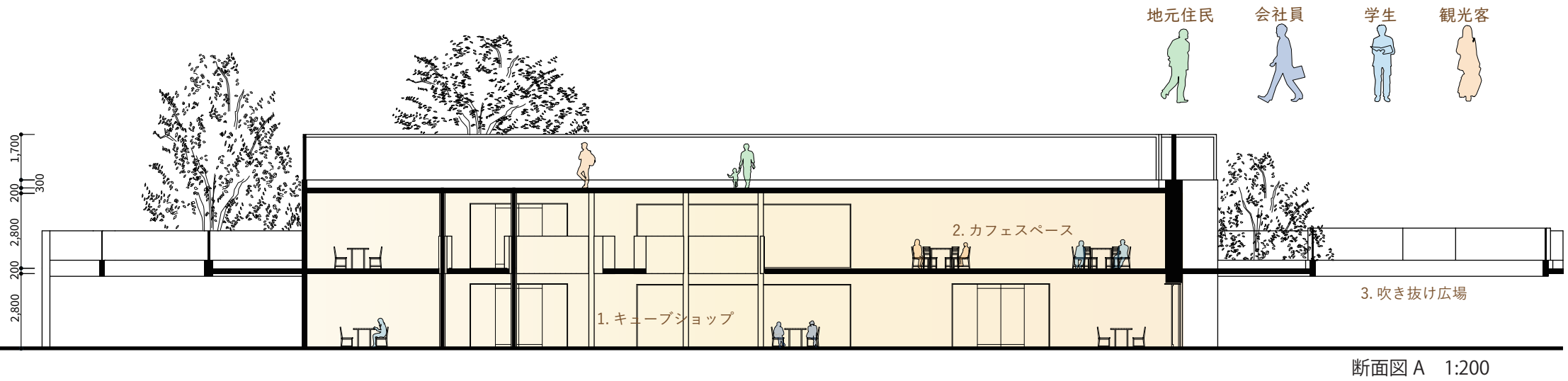
1. キューブショップ
季節ごとに入れ替わる期間限定のスイーツや雑貨、名古屋の名産品などが並ぶキューブショップ。店舗が定期的に入れ替わることにより来訪者の関心を引き続け、まちに新陳代謝をもたらす。隣接する飲食スペースでは購入品をその場で味わうことができ、買い物と滞在を促す空間が緩やかにつながる構成となっている。



2. カフェスペース
配置が自由なテーブルと椅子により、個人でもグループでも、飲食・休憩・対話など多様な使い方ができるカフェスペース。屋内外がゆるやかに連続し、自然光や風を感じながらくつろげる環境をつくっている。来訪者同士の偶発的な交流も生まれやすく、コミュニティのハブとなる空間である。



3. 吹き抜け広場
屋内と屋外の境界にある半屋外空間で、空と光を感じられる開放的な中庭。中心の植栽を囲んだ円形ベンチに加え、芝生と柔らかな敷物が敷かれ、訪れる人々は読書やピクニックなど多様なくつろぎができる。都市にいながら自然とのつながりを感じ、滞在時間がゆるやかに流れるような空間になっている。



4. 地下換気塔
リニア中央新幹線の走行に伴う上昇気流を利用して、地下の換気機能と連動しながら植物の蒸散作用を促す構造となっている。季節に応じた草花の色や形の変化を、訪れるたびに楽しむことができる。塔周囲には気流による涼しさを感じられるベンチを設け、都市の中に涼やかな自然の居場所が生まれている。



5. ワーキングスペース
静かに集中できる一人席から、気軽に会話できるテーブル席まで、多様な働き方に応じた柔軟な空間。2階には会議などに利用できる小さな個室があり、大きな窓で開放的にも、ブラインドにより閉じた空間にもなる。空間の一角に軽食や文房具を扱う小さな売店を設け、長時間でも滞在できるようになっている。



6. 階段広場
上下階をつなぐ広場に緩やかな段差を設け、腰かけたり寝転んだりと思ひ思いに過ごせる自由度の高い空間。都市の喧騒から離れた心地よい場所として、通過だけでなく滞在を促す構成としている。日差しや風の変化に応じて、時間とともに使われ方が変化し、人々の生活のリズムと自然がつながるよう計画している。



7. 藤棚の廊下
季節の変化と共に表情を変える、半屋外の藤棚の廊下。春には藤の花が垂れ下がって淡い紫のトンネルをつくり、夏には葉が心地よい木陰を生み出す。歩く、立ち止まる、見上げるといった行為が自然と引き出され、日々の中に小さな発見や癒しを提供する。時の流れを感じられる通路空間として計画している。



8. ギャラリー
名古屋のまちの歴史や、この敷地に根ざす植物との関係を説明する展示を行うギャラリースペース。生物の生息地ともなりえるグリーンインフラとしての建物の役割を学ぶことができる。また、観光客や会社員などが移動の合間に有意義に時間を使うことができる空間となっている。



9. 中庭
中庭には草花とベンチが点在し、展示と風景が連続するように構成されており、鳥や虫の姿を間近に観察することができる、生態展示の空間にもなっている。人と自然、過去と現在のつながりを肌で感じ取ることができる落ち着いた空間として設計している。